

中等部135名の卒業生の皆様、ご卒業おめでとうございます。

そして、保護者の皆様、お子様のご卒業心よりお祝い申し上げます。

立派になったお子様の姿をご覧になり、さぞ喜びもひとしおのこととご推察いたします。入学時はまだあどけなさが残る小学校7年生といった様子で、大きな重い鞆や部活動の道具を持ってバス停へ向かうわが子を、雨の中自転車を漕いで行く後姿を不安な思いで見送ったのではないのでしょうか。保護者の皆様は「自分で選んだ道なのだから頑張れ」と小さな声で後ろ姿に声をかけたと思うのです。

子どもが幸せなこと、何かに夢中であってくれること、親の願いはただそれだけであったと思います。

親の姿が見えないと探しまわり、親の後を追って泣いていた我が子が、中学生になった途端、親の忠告や意見を面倒くさがり、時には反抗されて胸を痛めたこともあったでしょう。

しかし、そうやって人は成長していくのであり、思春期に様々なことにぶつかるからこそ、人の悲しみや人を思いやる気持ちが育つのだと思うのです。思春期にこそ喜怒哀楽は必要であり、それは自立への一歩を歩み出した証明であると思います。

卒業生の皆さん、私は「誠実とは行動することである」という言葉が好きです。自分はいつも「こうありたい」と願っています。

ねむの木学園を御存じでしょうか。静岡県掛川市の郊外に学校法

人ねむの木学園特別支援学校、身体障害者療護施設ねむの木などの施設が建っています。女優宮城まり子さんが1968年に最初は浜岡町、現在の御前崎市に私財を投じて作った施設です。肢体不自由児が学ぶ施設がそれまでありませんでした。就学猶予という名目で、そういう人々は教育の枠から疎外されていたのです。

障害があるというだけで、教育を受けられない人々がいる。だったらその人々のために学校を作ろう。言葉にすれば簡単ですが、「思い」と「行動」と「結果」は違います。宮城さんは思いを行動に移し、結果を残しました。もう30年以上も前ですが、私は故郷札幌で宮城まり子さんの講演を聞く幸運に恵まれました。淡々とした語り口、気負いも迷いもなく、自然体で子供たちと向き合い、学園の運営に心血を注いでいる姿。誠実な姿に心打たれました。誠実とは行動することなのだ、行動のない誠実など、それは、本物ではないと私は強く思ったのです。

多くの人は宮城まり子さんの生き方、現在続けている事業に共感し共鳴するでしょう。しかし、ではどれほどの人間が、具体的に行動に移し、そして、長きにわたって支え続けていけるかと問うと、私を含めて多くの人は下を向かざるを得ないと思ってしまう。

51年間、半世紀にわたってこの学園は存続し、今も、創設時の精神を継承して続いています。ただ、ただ、頭が下がる思いです。

卒業生の皆さん、「誠実とは行動すること」です。そして、その行動を一過性で終わらせるのではなく、続けていくことが大切だと知ってほしい。今後の人生において、皆さんが真面目に誠実に生きたいと願うのなら、まず、行動することです。行動することによって多くの皆さんの願いや希望が叶うのだと私は思っています。

さて、今の社会に目を転ずれば、必ずしも明るい未来が待っていると断言できないかもしれませんが。けれども、21世紀を作っていくのはまさしく皆さんです。

今よりもより良い時代を作り、担っていく責務が皆さんにはあります。かつて人類はさまざまな脅威や困難、見えない恐怖に遭遇してきました。しかし、そのたびごとに、人は知恵を出し合い、工夫し、研究して多くの不幸や苦しみ、悲劇を克服してきたのです。これからは皆さんがそれを成し遂げるのです。我々の目の前に立ちただかっている脅威に敢然と立ち向かい、必ず克服し、前進して行くものと信じます。今回の第71回卒業証書授与式の形は大変残念なことではありますが、これは、人類に我々に皆さんに与えられた大きな試練であると思っています。改めて本日をこの試練を必ず乗り越えるのだという強い決意を表明する日にしたいと思います。

皆さんはこの4月からそれぞれの道を歩みだします。人は未知のものに飛び込むときはいつも期待と同時に恐れや不安を抱きます。

しかし、臆することはありません。本校で学んだこと経験したことを糧にし、自信に変えて新たな高校生活を切り開いて行って欲しいと思います。

とりわけ、大多数の生徒が進む静岡翔洋高校ですが、静岡県の公立高校のおよそ65%もの学校が定員割れをおこす中、本校はこの4月から定員360名を105名も超える465名の入学者を数え11クラスのスタートとなります。たくさんの公立中学出身の生徒と競っていかねばならない皆さんですが、恐れることはありません。皆さんの先輩は立派に静岡翔洋高校の中心となって活躍しています。

高校の総長賞をこの4年間受賞したのは中等部出身者です。4名とも医学部へ進学いたしました。勉強面でも翔洋生は高校をリードし、部活動の面でも中・高一貫教育の成果が出てきています。皆さんが今後も建学の精神を胸に刻み、静岡翔洋高校の中心であってほしい。そして他校へ進む生徒にも同様のことを望みます。静岡翔洋高等学校中等部の卒業生であることに誇りを持って活躍をしてください。

最後に、君たちは伝統ある静岡翔洋高等学校中等部第71期生です。3年間同じ空間で過ごし、学び、泣き、笑い、汗を流した仲間です。1000日に及ぶ中学生活の日々は二度と戻っては来

ません。しかし、どんなに時が過ぎ去っても、またみんなと会えば、一瞬にして昔の自分たちに戻ることができ、勇気づけられたり、元気が出たりするのです。仲間、友はまさに宝物です。

静岡翔洋からは永遠の姿をとどめる美しい富士が見えます。大切な中学生生活、多感な青春時代を送った思い出深い校舎です。どうか、翔洋生らしく雄々しく、自らの抱く希望に向かって歩みを進めてください。希望こそ生きる原動力です。素晴らしい人生の「門出」となることを祈念致しまして、校長の「告辞」といたします。

卒業おめでとう。